

支部間交流による若手技術者交流サロンの改善への示唆と展望

東京工業大学 環境・社会理工学院 正会員 ○ 山田菊子
北海道電力株式会社 正会員 松浦正典
株式会社大林組 正会員 田口伸吾

1. はじめに

土木学会北海道支部の「若手技術者交流サロン」(以下「サロン」)は、土木学会の100周年記念事業として実施した2013年度以降、若手技術者と学生の交流を目的に継続的に開催する、参加者から高い満足度を得る行事である。現在は支部活性化WGが担当している。著者¹⁾はこれまでの経緯を報告し、活動の範囲や視点が支部内にとどまること等の課題を指摘した。論文執筆の過程で当支部以外にもサロンに関連する様々な取組みがなされていることを把握した。そこで2018年度は支部間での情報共有として(1)各支部担当者間での情報交換会、(2)他支部事業の視察・意見交換を実施して北海道支部の活動への示唆を議論した上で、第5回のサロンを開催した。本稿ではこれらの3つの活動とそれらの成果を報告した上で、今後の展望を述べる。

2. 他支部との情報交換

(1) 支部担当者間の情報交換

本行事は平成30年度土木学会年次学術講演会の期間中に開催し、8支部のうち6支部の担当者が出席した(表-1)。まず、北海道支部が論文¹⁾に基づき活動を報告した。その後、各支部からの活動紹介を行い、最後に全体で、今後のサロンのあり方について議論した。

議論の結果、各支部により実施状況が異なることがわかった。名称の変更、テーマの設定の有無、弁当を用意する、学校に依頼する等の参加者確保の工夫が紹介された。また、支部長の強力なリーダーシップや、事務局による連携先の紹介などの支援が有効であることも示された。複数年にわたり継続して開催する支部もあれば、今後、開催を検討する支部もある。いずれの支部においても、サロンは高い評価

を得ており継続が期待されている。全国大会開催時にこのような各支部担当者間での情報交換の場を設け、担当者間の交流を継続することがサロンの継続に寄与するという期待が多数あった。

(2) 関西支部主催イベントの視察と意見交換

情報交換会の際の議論より、若手技術者の交流を目指す同種の事業であり、長期間にわたり継続的に開催されている関西支部の「ぶら・土木」の事例を把握した。そこで、この行事を視察し意見交換を行うこととした。「ぶら・土木」は「『つながる、伝える、育てる、育つ』」をキーワードに、若手土木技術者の交流と技術力の向上を目的として活動する、土木学会関西支部の分会(ブランチ)である。視察したのは第26回であり、甲子園球場とそのグラウンドの整備を通じて土木の維持管理を知ることがテーマとされていた。参加者は30名程度で、親子連れ、退職者、現役の方など様々であり、女性の比率が高い。リピーターも数名おり、本イベントが定着していることがわかる。支部事務局および幹事団が主体的に企画して、年間に複数回、代表幹事を交代しつつ開催している。

視察に参加した著者の一人は、「ぶら・土木」の活動のポイントを次のように説明した。

- 土木学会が主催の強みを最大限に発揮して、一般には体験できないスペシャル感を持たせる。
- イベントの規模は大きくなくとも、細かくテーマを分け、繰り返して開催する。
- 地域の特色を最大限に活かした、身近なキーワードを設定する。
- より細やかで魅力的な活動を展開するためには、支部事務局と幹事の連携が重要である。

(3) 北海道支部活動への示唆

情報交換会及び「ぶら・土木」の視察と意見交換を通じ、北海道支部のサロンについては、次の示唆を得た。すなわち【示唆1】土木学会ならではのかつ北海道に即した身近なテーマを設定すること【示唆2】幹事が機動的に動けない場合もあることから、事務局との連携を深め支援を仰ぐこと【示唆3】適切な規模の行事を継続して実施することの3点である。

表-1 各支部担当者間の情報交換会

項目	内容
日時	2018年8月29日(水)16:00-18:00
場所	北海道大学工学部
参加者	6支部(東北、関東、関西、中国、西部、北海道)より、若手技術者交流サロンの担当者、計12名
実施内容	各支部の活動事例紹介と、今後のサロンのあり方についての議論

Key Words: 学生、若手技術者、支部活動、ワークショップ、キャリアプラン
〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1-M1-20, kiko.yamada@plan.cv.titech.ac.jp

3. 第5回若手技術者交流サロン

(1) 実施概要

2018年度は前節で得た示唆を反映し、北海道内の大学や高専の在學生に、自身のライフプランを考えてもらう課題を設定し【示唆1】、同時期に開催する地盤工学会及び土木学会の支部主催の研究発表会の支援をいただきつつ【示唆2】、第5回を実施する【示唆3】こととした。

北海道各地より学生が集まる年次技術発表会の日程に合わせて実施した。1日目の午後に現場見学会と懇親会を、2日目の午後にサロンを開催した(表-2)。苫小牧港と(株)北海道電力の大型蓄電システム実証試験施設を対象とした見学会には、サロン出席学生15名のうち9名が参加した。

(2) テーマと方法

「自分の未来予想図を描いてみよう」というテーマを設定し、記入用紙(図-1)を用意した。参加者自身の30年

後までの姿を仕事と生活の両方について記入させるものである。テーマの設定と用紙の作成にあたっては、WG幹事及び幹事の職場でインターンシップ中の学生が記入し、改善を加えた。この結果、シートの上半分は「社会の出来事」「身近ななんでも技術」、下半分は「私の人生いろいろ」とした。また、参加者には事前にシートを記入することを課題として与え、当日は持参したシートをもとにグループ内で自己紹介をさせた。その後、グループ討議により模造紙に「社会の出来事」を新たに作成しつつ、手元の「私の出来事」を推敲させた。社会人のファシリテータと若手技術者が「進行のヒント」²⁾を参考に討議を進めた。

(3) 成果

終了後にアンケート調査を実施した。現場見学会は5点満点で4.42点、サロンは4.68点(7割が5点)をつけるなど、今回も高い評価を得た。自由回答や、実施中の会話より、2017年度に続き事前に現場見学会を催すこととで話しやすい雰囲気を用意できたこと、就職や就職活動を控えた学生に自分の未来を予想させるのは、タイムリーな話題であったことがうかがえた。これまでのテーマ(例えば「土木学会のイメージアップ戦略」(第2回)、「未来の北海道のために、土木の力でやりたいこと」(第4回))に比べて、より身近な話題を設定できたことも寄与したものと考えられる。また、ファシリテータや若手中堅技術者として参加した社会人からも、普段、接することのない世代との交流を貴重な経験ととらえていることがわかった。一方で、研究発表会との同時開催は発表や運営に関わる学生の参加を困難としていることも明らかとなった。

4. 今後の展望

支部の学生や若手技術者に働きかけるこのような活動は、土木学会の活動の認知度の向上や学会活動の裾野の拡大に直接的に寄与するため、今後も継続すること望まれる。支部の他の行事との連繋による人的、財政的負担の軽減、学生が参加しやすい日程が今後の課題である。

謝辞: 「若手技術者交流サロン」は土木学会北海道支部、企画委員会「JSCE2015に基づく活動計画助成」の支援をいただき、若手パワーアップ小委員会及び北海道支部事務局の皆さまのご協力のもと、支部活性化WGメンバーが実施した。ここにお礼を申し上げる。

参考文献

1) 山田菊子：土木学会北海道支部における若手技術者交流サロンの経緯と今後の課題，土木学会年次学術講演会講演概要集，Vol. 73，pp. 13-14，札幌，2018．

2) 岩田圭佑：進行のヒント，若手技術者交流サロン 進行資料，2015．

表-2 第5回若手技術者交流サロンの概要

項目	内容
参加者	学生15名(5大学；うち女性3名) 社会人14名(ファシリテータ、若手中堅技術者として参加)
テーマ	「自分の未来予想図を描いてみよう」
主催	北海道支部 支部活性化WG
後援	企画委員会若手パワーアップ小委員会
日時	2019年1月26日(土)15:00-17:00 (前日午後に現場見学会と懇親会を開催)
場所	苫小牧工業高等専門学校
事前準備	各自の未来予想図を記入し持参。
議論の方法	4班に分かれたワークショップ。
当日の流れ	未来予想図をもとに自己紹介。 班ごとに「社会の出来事」を予想。 「私の出来事」を推敲し参加者全員で共有。

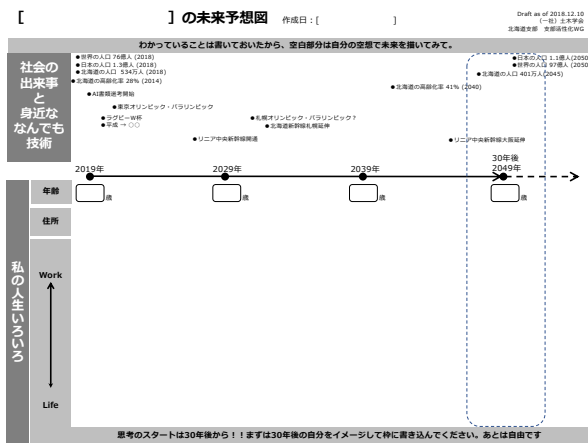


図-1 未来予想図記入用紙